

特別養護老人ホーム「長生共楽園」

～廊下を移動空間から生活空間へ（ステップ1）～

- リビングルームは廊下や食堂の一部を利用する。その場合は、植物、籐のスクリーン、のれん等により、空間的な配慮をする。また、そのスペースには、籐製品やローボード、チェストなど小物を使用し、日常生活を演出する。
- 4床室におけるベッドの配置を工夫し、個室的な雰囲気をつくる。
- 古い茅葺きの家屋等で体験逆デイを実施し、入居者と介護者との間で信頼関係を築く

既存施設ユニットケア実践報告事例

| | | |
|-------------------|--------|--|
| 施設名称 | | 特別養護老人ホーム 長生共楽園 |
| 運営主体 | | 社会福祉法人 長生共楽園 |
| 施設所在地 | | 茂原市下永吉2812番地 |
| 電話番号 | | 0475-22-1888 |
| 開設年月日 | | 昭和52年2月1日 |
| 施設 の 現 況 | 定員 | 75人 (施設入所70人・短期入所5人) |
| | 職員数 | 施設長 1 (常勤) 医師 3 (非常勤) 生活相談員 1 (常勤・兼介護支援専門員) 介護職員 27.97 (常勤換算：常勤22・非常勤7) 看護職員 4 (常勤4・兼機能訓練指導員) 事務員 2 (常勤2) 栄養士 1 (常勤) 調理員 6 (常勤3・非常勤3) |
| | 人員配置割合 | 2.3 : 1 |
| | 概要 | <p>開設後25年9ヵ月を経過。 介護老人福祉施設(70)と短期入所生活介護(5)のほか、 通所介護・訪問介護・居宅介護支援と併せて、一体的に事業を 運営している。 特に通所介護は施設本体の共用部分が多い事などから、施設全 体として余裕スペースは乏しい。 施設概況は以下のとおり。</p> <p>施設本体 4人室 16 2人室 3 (全て1階) 短期 3人室 1 2人室 1 通所介護 コミュニティスペースならびに食堂等共用部分 訪問介護 会議室一部 (2階) 居宅介護支援 事務室及び相談室</p> <p>廊下幅は比較的広く、食堂も拡張した為、こうした部分を有効 活用し、ユニット化出来ないか検討、試行錯誤している。</p> |

| ユニットケアの類型 | ステップ1 |
|---------------------------------|--|
| <p>ユニットケアへ取り組みきっかけ</p> | <p>平成13年度の処遇方針を「ユニットケアによる充実した介護サービスの提供」とし、ユニットケアに取り組みだした。</p> <p>平成14年度は「ユニットケアの体制の確立」を方針とし、ユニットケアプロジェクトも設立、ユニットケアを推進してきた。5月に施設長が県のユニットケア推進検討委員会の委員となったのをきっかけに、更に強力に取り組む事となった。</p> |
| <p>現状において、ユニットケアを実践する上での問題点</p> | <ol style="list-style-type: none"> ① リビング・パブリックスペース等に活用し得るスペースがない。 ② 利用者及び家族、職員に対する「ユニットケア」の理解を深める為の研修や時間取りにくい。 ③ ユニットケア導入による職員増に関する人件費増 |
| <p>自分たちの考えるユニットケア</p> | <ol style="list-style-type: none"> ① 老人ホームが施設としてではなく、利用者の方々にとって、日常の暮らしの場として、利用者1人1人の求める生活環境を整える事。 ② 生活の場で、必要なケアが必要な時に提供され、それが心地よいものである為の利用者と介護者の信頼ある完成された関係づくり |

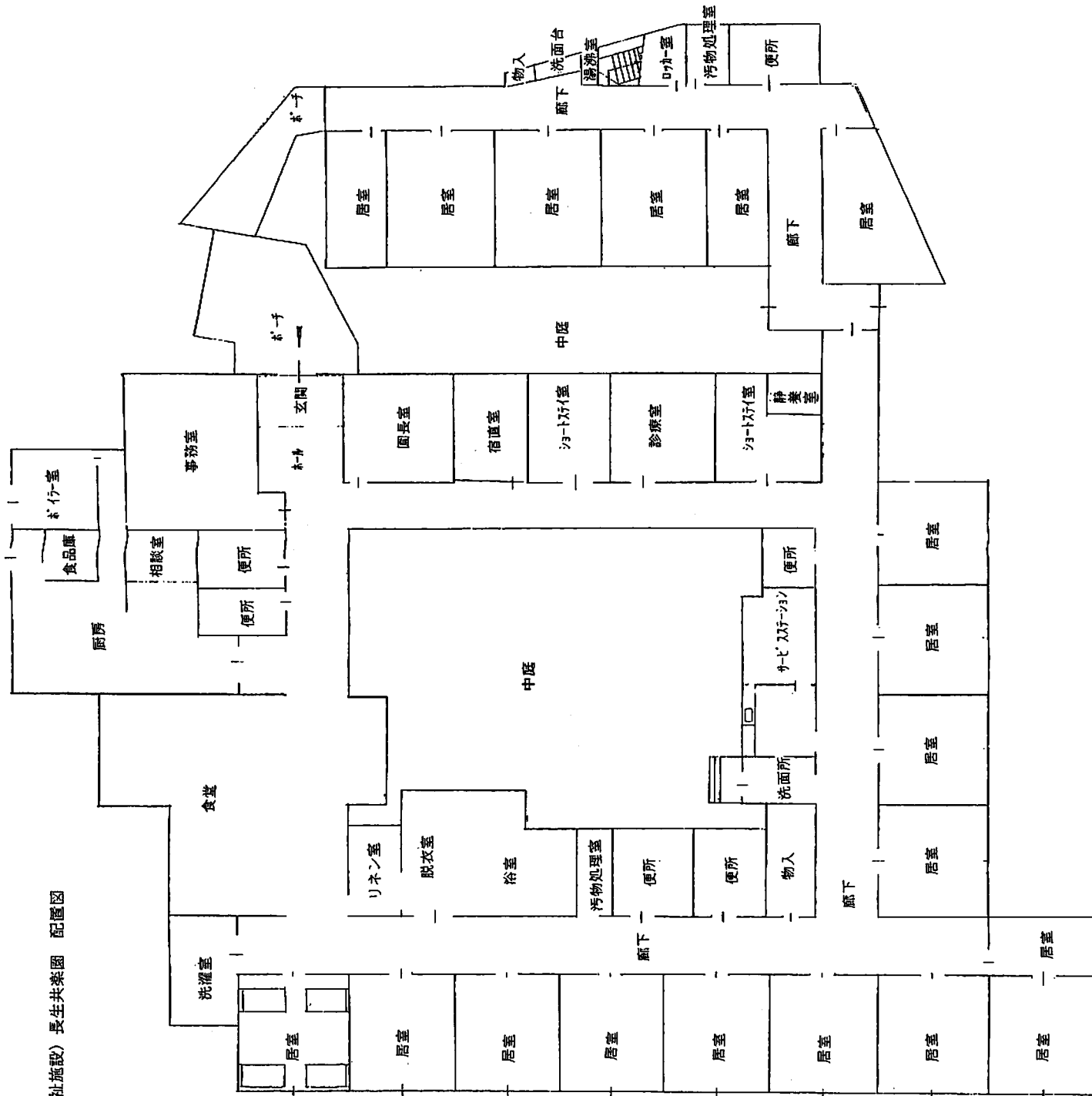
| | |
|--------------------------------|--|
| <p>必要と考えられる人員配置</p> | <p>2 : 1 以上 1 部屋（4 人部屋）担当職員 1 名 2 部屋を 1 ユニット</p> <p>食堂・廊下・トイレ・浴室等共同スペースの清掃 洗濯その他雑役担当 入浴実施の際の補助要員等 勘案すると最低人員 2 : 1 と試算</p> |
| <p>現状の施設配置図</p> | <p>別紙 1 のとおり</p> |
| <p>改修後の施設配置図</p> | <p>別紙 2 のとおり</p> |
| <p>居室のイメージ及び設置する設備・備品</p> | <p>現在の施設は整備はされているが、いわゆる施設然としており、家庭的でない感は否めない。しかし、現代の各家庭は必ずしも昔風の和、例えば、畳・障子・襖とは限らない。</p> <p>現行の施設の造りをうまく活用しつつ、より家庭的雰囲気を作るため、可能な範囲で脱施設を目指す。</p> <p>例として、居室のナンバープレートを外す、カーテンや布団カバー変更。食器の個別化と瀬戸物使用。</p> <p>又、多床室でのプライバシー確保の為のベッドの配置の工夫とカーテンやスクリーン（素材は布・籐・その他）の活用により、個室的感觉を作り出す。</p> <p>廊下に団欒の場を数カ所設ける。</p> |
| <p>リビングルームのイメージ及び設置する設備・備品</p> | <p>施設の作りそのものの持つ雰囲気とリビングルームの雰囲気に格差の生じないよう配慮する。既存施設という事もあり、新たに設けることは難しい為、廊下の一部をリビングルーム的空間（パブリックゾーン）として利用し、食堂の一部を同様のスペースとして環境作りをしたい。</p> <p>前者については、廊下を区別し、テーブル・椅子の配置を行う。後者については、観葉植物・籐製品のスクリーン・フラワーベース等を置き、季節の鉢花を配置する。</p> <p>籐製品に関しては、食堂の照明と上手く調和し暖かみのある雰囲気を作り出した。</p> <p>視覚・聴覚など人として感性の側面から、ステップ 1 の具現化を図る努力をしている。</p> |

| | |
|-----------------|---|
| 職員に対する研修 | <p>研修会を設け、基本的な理解・当園における「ユニットケア」の導入方法、ステップ1についての理解を深めている。</p> <p>文献の考察など知識の修得のみでなく、新聞、その他メディアからの情報、インターネットからの情報を随時取り入れ、常に変わりゆく情報を入手し、職員への理解につなげている。</p> <p>逆デイを実施し、入居者・職員が共に家庭的雰囲気及びユニットケアを肌で感じ意識付けする。</p> |
| 理事長等経営者に対する意識改革 | <p>ユニットケア及びステップ1に取り組むことに対しては理解を得られている。</p> <p>しかし、今後の改修等、ユニットケア実施の為に係る経費の捻出等課題は山積みであり、経営的側面から、導入は慎重にならざるを得ない。</p> <p>多床室では、仮にリビングやパブリックスペース等、改造等で確保してもホテルコストは徴収できず、県独自の補助体制がないと難しい現状と考えている。</p> |

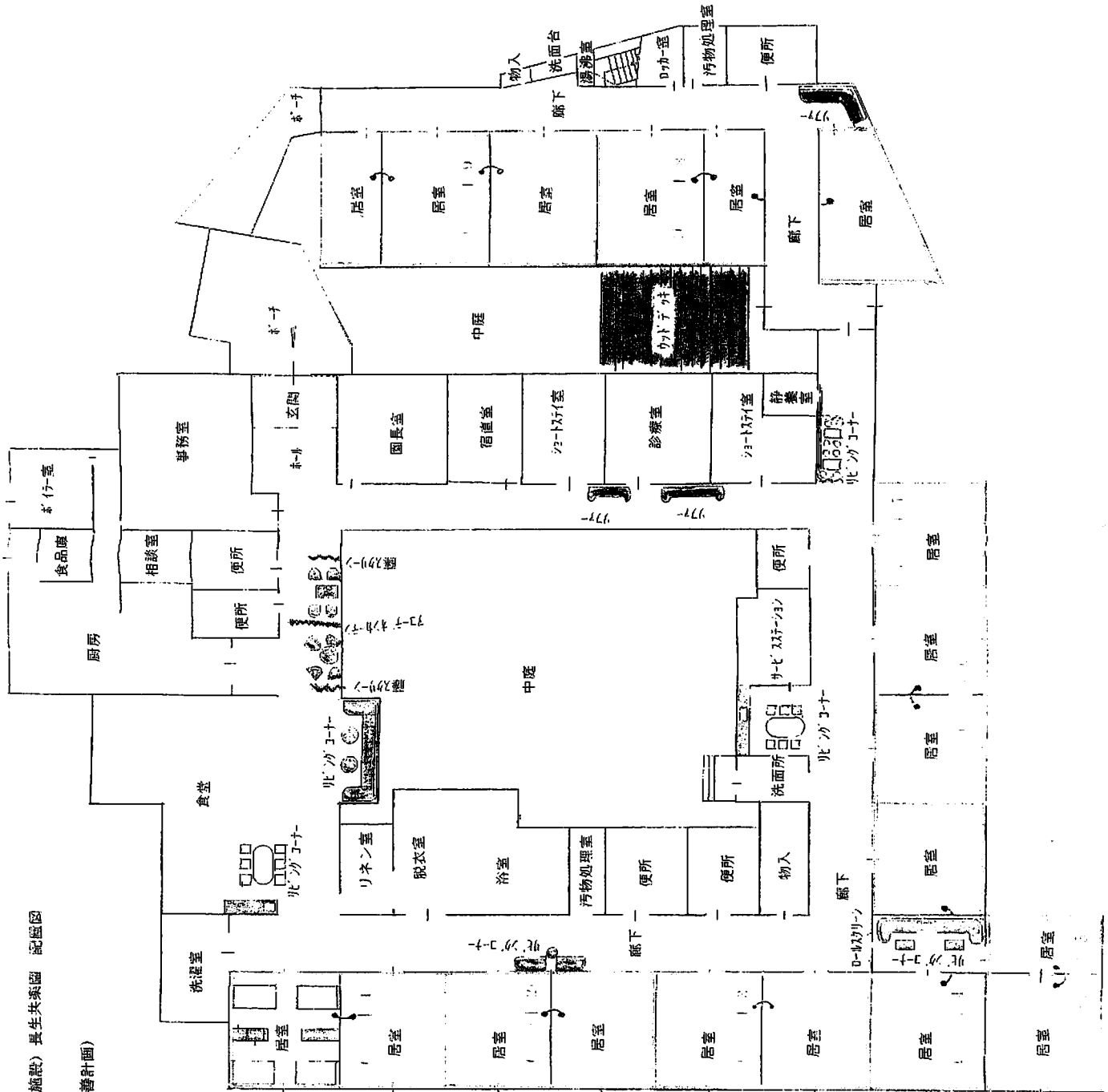
| | |
|-------------------|---|
| 今後のユニットケアのあり方について | <ul style="list-style-type: none"> ・ 建造物の整備はユニットケアを推進する時欠かせない重要要素であるが、この事において資金面について県等からの補助体制が準備されればその推進に大きな影響があると思う。 ・ 現在、ステップ1に取り組んでいるが、設備の充実のみでは味わえない、本来のユニットケアが目的としている利用者主体の利用者1人1人に合った介護サービスを提供する事により、身体的・精神的満足度を増すよう不足部分を補っていきたい。 ・ ユニットケアは設備をユニット化したり、ケアそのものをユニット化する事ではなく、利用者が、その人らしく生活する事であり、その為に最も必要不可欠な事は、関わる職員の意識であり、重要事項は職員研修と考えている。 ・ ユニットケアをステップ1で実施するにあたり、近接する家屋を使用してのいわゆる逆デイを計画、実施した。(詳細は別添実績報告書を参照) 利用者の参加も積極的で、心身状況にも変化が見られ、徘徊行動の減退など一定の有効性が認められ、また、逆デイ実施時間中には、施設内でのユニット化の充実が図れる効果もあった。施設外での小人数での生活(介護)は、施設内でのユニットケアから一步前進した、施設サービスでの新たな生活(介護)形態ではないだろうか。 |
|-------------------|---|

特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）長生共楽園 配置図

（ユニットケア対応前の状況）



（ユニットケア対応に伴う改修、改善計画）



特別養護老人ホーム長生共楽園 逆デイサービス実施報告書（9月分）

実施開始時期：平成14年9月 実施場所：隣接する家屋（茅葺き・平屋）

| 実施日 | 実施時間 | 利用者数 | 配置職員数 | 実施内容 | 実施結果並びに感想 |
|--------------|----------------------|------|----------------|--|--|
| 9月9日 (月) | 13:30 から 15:45 | 4名 | 2名 | <ul style="list-style-type: none"> ・台所にて湯を沸かし備え付けの食器を使用し、おやつを食べながら団欒の場を設ける。 ・和式トイレに簡易洋式便座を置く。 | <p>「実施結果」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和式トイレでの排せつも支障なく使用できた。 <p>「感想」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初回であることから全員の反応を観察した結果、顔の表情も良く、生き生きとしていた。 ・利用者個々の趣味、特徴を生かした時間が過ごせれば良いと思う。 ・逆デイ担当のほか、利用者所属のユニット担当の協力体制を確保したい。 ・職員が見守るより先に介助をしてしまった。 |
| 9月13日 (金) | 14:00 から 15:45 | 7名 | 2名 | <ul style="list-style-type: none"> ・前回同様に台所で湯を沸かし、おやつを楽しむ。 ・前回の利用者から要望のあった編み物を始める。 ・無理なく支援していく予定。 | <p>「実施結果」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・熱心に編み物に興じる姿は、施設では見られない様子であった。 <p>「感想」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員も前回に比べて、見守ったり、寄り添うケアが出来たと思う。 |
| 9月20日 (金) | 10:15 から 15:30 | 8名 | 2名 | <ul style="list-style-type: none"> ・昼食を試みる。職員も利用者と一緒に食事を摂る。 ・趣味を生かす支援をする。 | <p>「実施結果」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昼食は、副菜を大皿に盛り、自分で取れる人には取ってもらった。 ・本を読んだり、編み物をしたり、思い思いの時間が過ごせた。 <p>「感想」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初めて昼食を挟む長時間の実施を試み、不安もあったが、比較的スムーズに行えた。 |
| 9月26日 (木) | 9:30 から 11:15 | 5名 | 2名 (1名誘導のみ) | <ul style="list-style-type: none"> ・散歩をしながら、ゆっくり行く。(金木犀の香りを楽しみ、季節を感じる) ・持ち寄ったお菓子を食べながらお茶を飲む。 ・編物の続きをする。 | <p>「実施結果」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金木犀の香りで、「秋」を感じとれた人がいた。 ・個々の役割が出来た様子で、自発的に、座布団、お茶を出す様になった。 ・普段見られない、利用者の姿を見る。(四ツ身の着物をきちんとたたむ) <p>「感想」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介助者も会話の中に入り、和気藹々に世間話をする事ができたと思う。 |
| 9月29日 (日) | 10:30 から 15:00 | 8名 | 2名 | <ul style="list-style-type: none"> ・利用者と一緒に、昼食をとる。 ・初めて利用する利用者の反応を見る。 ・紐作りと趣味を生かす支援をする。 | <p>「実施結果」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員手作りの「古代米」の御飯を食べる。 ・同敷地内にある他施設職員3名が、利用者に話をしに来る。 ・段差に注意し、トイレ誘導した。 <p>「感想」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・便失禁者の、排泄用品の準備が、不十分であった。 |